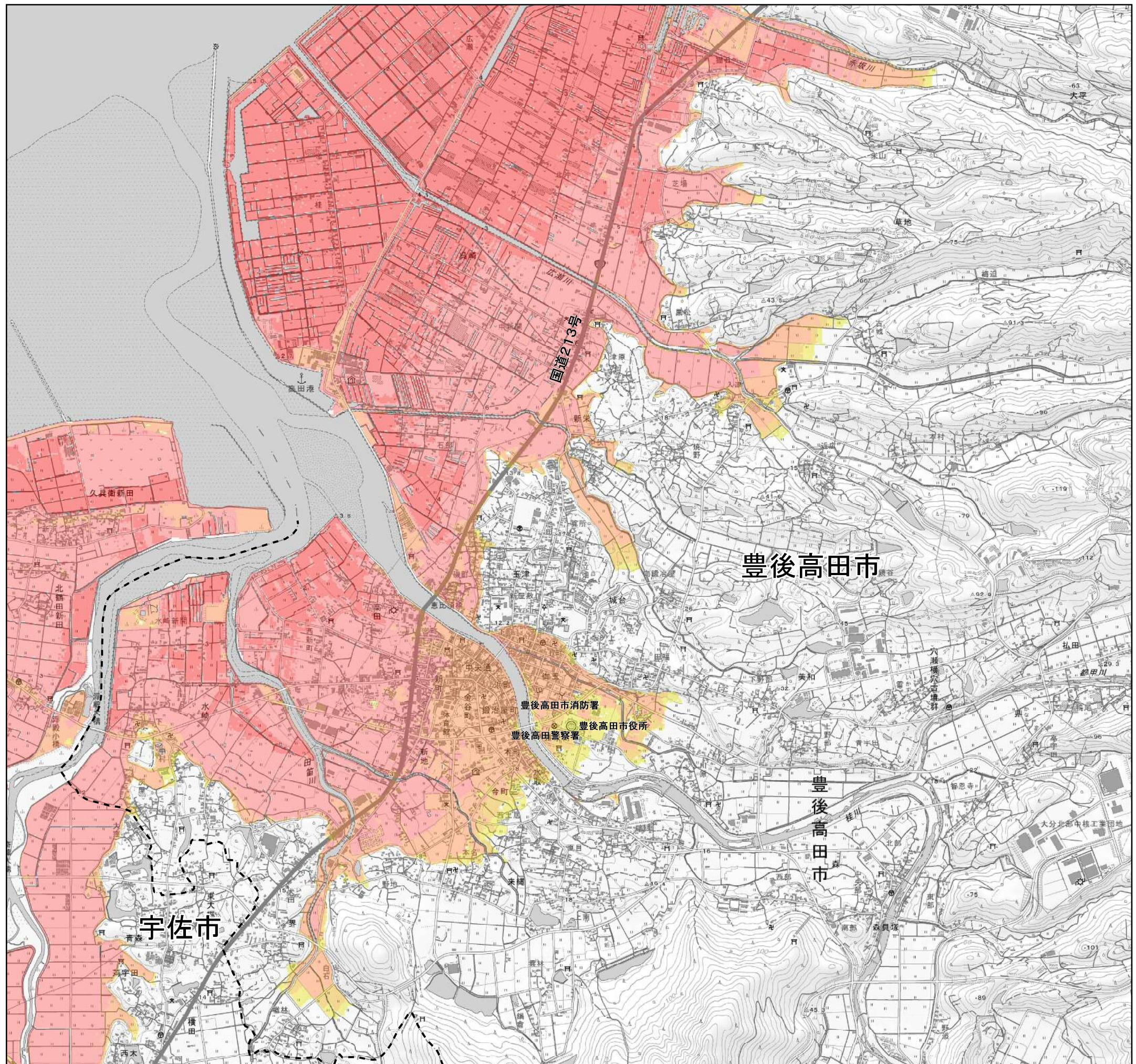


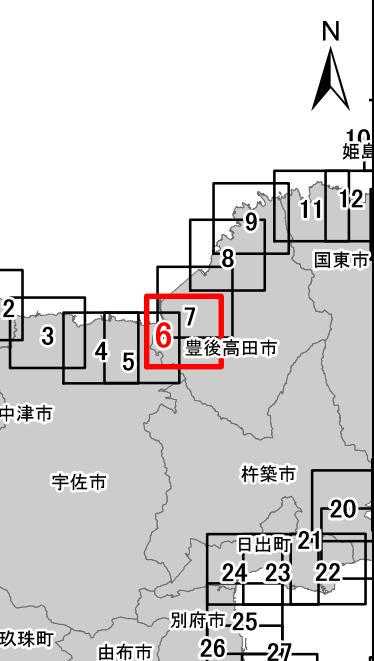
豊前豊後沿岸高潮浸水想定区域図 市町村別『豊後高田市』(6/62)



凡例 浸水深(m)

- : 0.3m未満
- : 0.3m以上 0.5m未満
- : 0.5m以上 1.0m未満
- : 1.0m以上 3.0m未満
- : 3.0m以上 5.0m未満
- : 5.0m以上 10.0m未満
- : 10.0m以上 20.0m未満
- : 20.0m以上

500 0 500 m
1:25,000



【留意事項】

高潮浸水想定区域図は、大分県において、水防法（昭和24年法律第193号）第14条の3の規定により定められた想定し得る最大規模の高潮による氾濫が発生した場合に、大分県において浸水が想定される区域（浸水区域）、想定される浸水の深さ（浸水深）、浸水継続時間と表示した図面です。浸水区域や浸水深、浸水継続時間は、高潮による浸水の状況を複数のケースでシミュレーションし、その結果から、各地点で最大となる値を着色して表示しています。なお、浸水深は、地盤の高さを基準としています。

高潮浸水想定区域図をご覧になる際は、次の事項にご留意ください。

○高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風を基本とし、各海岸で潮位偏差（潮位と天文潮の差）または高波が卓越する複数の経路を設定して高潮浸水シミュレーションを実施し、最大の浸水深が示されるようになります。

○最大クラスの高潮は、現在の科学的知見に基づき、過去において実際に発生した台風や高潮から設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないというものではありません。

○最大クラスの高潮を引き起こす台風として、中心気圧は、我が国で既往最大規模の室戸台風（昭和9年）の900hPaを想定し、移動速度は伊勢湾台風の時速75kmを想定しています。

○台風の接近・上陸時には、高潮のみならず、降雨も想定されることから、一級及び二級河川においては、想定し得る最大規模の高潮と同時に、河川整備の目標とする降雨による洪水が発生することも想定しています。

○想定し得る最大規模の高潮と想定し得る最大規模の降雨による洪水が同時に発生することは、それぞれの発生する確率が極めて低いことから、想定していません。

○海岸保全施設や河川管理施設である堤防等は、最も高い位置に設置されています。高潮浸水想定区域図は、海岸保全施設や河川管理施設である堤防等は、最も高い位置に設置されています。

○決壠後は、周辺地盤の高さと同様の地形として扱っています。

○地震による海岸保全施設等の沈下や破損などは想定していません。

○浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、前提とした各種条件を超える事象により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

○排水施設（ポンプ場）が浸水した場合、機器の水没により排水機能が停止することを考慮しています。側溝・下水道や排水路だけでは、降った雨を排水することができずに、浸水が発生する内水氾濫は考慮していません。

○地形図は、主に令和元年度までに作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。

○地下につながっている階段、エレベーター、換気口等が、浸水区域に存在する場合、地下空間が浸水する恐れがあります。それを通じて浸水が広がることは考慮していません。

○高潮浸水シミュレーションは、計算規模や解像精度等の制約から、予測結果には誤差が存在するほか、再現できない現象もあります。現在の科学的知見に基づき、既往最大規模の台風をもとに想定し得る最大規模の高潮を推定していますが、実際には、これよりも大きな高潮が発生する可能性もあります。また、台風接近時の潮位等、計算の前提条件と異なる要因がある場合、浸水する区域や浸水の深さ、浸水継続時間が異なる可能性があります。なお、気候変動による海面上昇については見込んでいません。

○地盤高が期待平均満潮位より低い地域については、堤防等が被災を受けた場合、高潮が収束した後でも、日々の干満によって、浸水が発生する可能性があります。

○今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性があります。

【用語の解説】

①高潮 : 台風等の気象じょう乱により発生する潮位の上昇現象。台風や発達した低気圧が通過するとき、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」と言います。

②朔望平均満潮位 : 朔（新月）および望（満月）の日から前2日後4日以内に観測された、各月の最高満潮面を1年以上にわたって平均化した高さです。

③異常潮位 : 高潮や津波とは異なる要因で潮位が1週間から3ヶ月程度継続して高く、もしくは低くなる現象です。

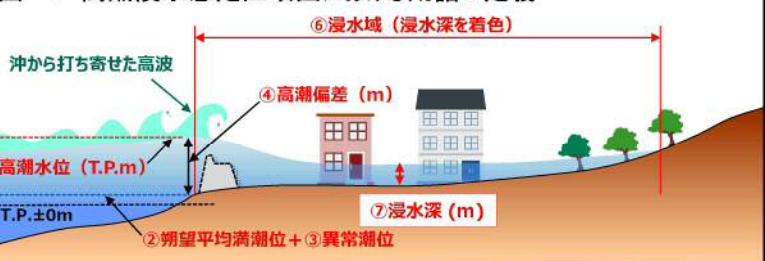
④高潮偏差 : 天体の動きから算出した天文潮（推算潮位）と、気象等の影響を受けた実際の潮位との差（ずれ）を高潮偏差と言います。その潮位偏差のうち、台風等の気象じょう乱が原因であるものを特に「高潮偏差」と言います。

⑤高潮水位 : 台風来襲時に想定される海面の高さをT.P.基準※で示したものを指します。
※T.P.基準とは、高い（標高）を表す基準として一般的に用いられるものであり、東京湾の平均水位（潮流の満ち引きがないと仮定した海面）をT.P.0mとしています。

⑥浸水域 : 高潮や高波に伴う越波、潮流によって浸水が想定される範囲です。

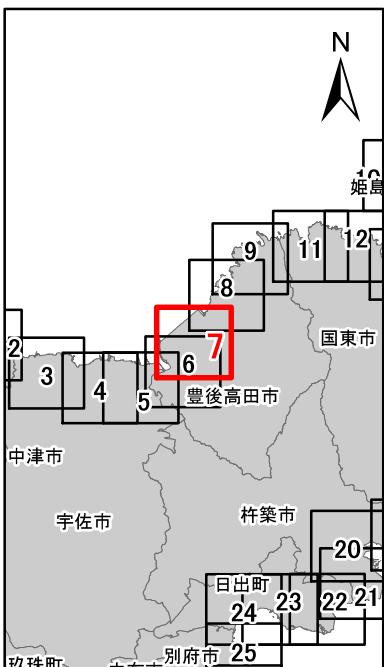
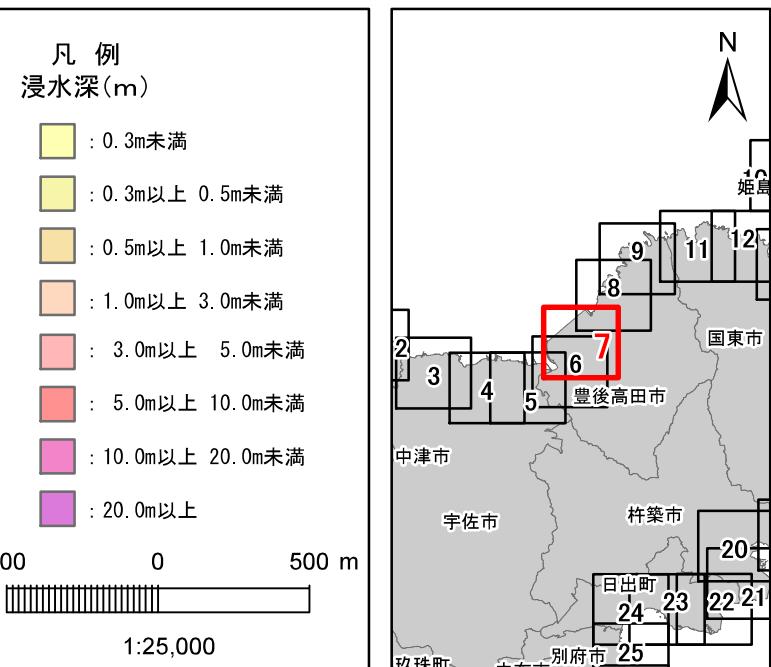
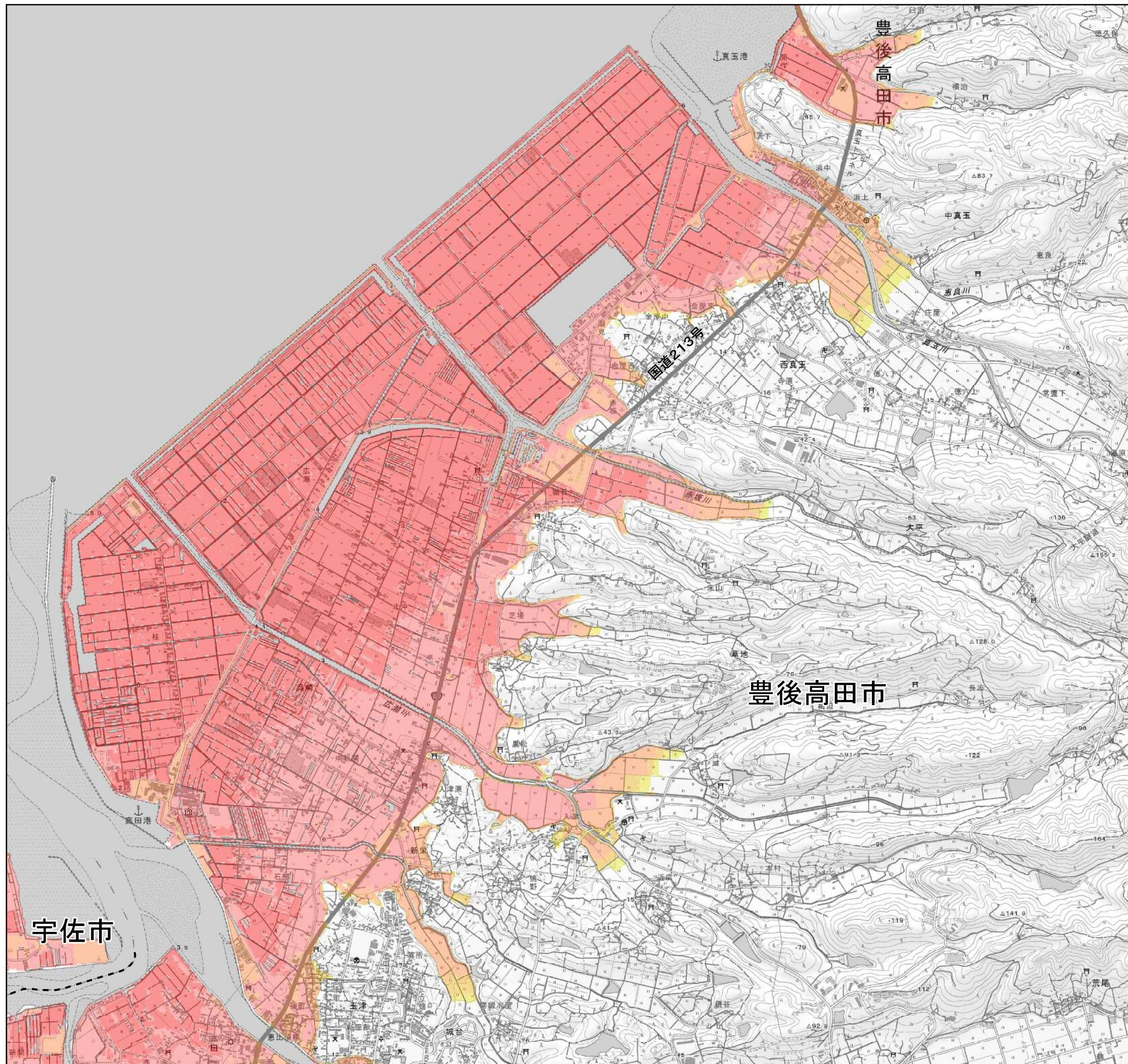
⑦浸水深 : 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さです。

図-1 高潮浸水想定区域図における用語の定義



令和3年6月作成

豊前豊後沿岸高潮浸水想定区域図 市町村別『豊後高田市』(7/62)



【留意事項】

高潮浸水想定区域図は、大分県において、水防法（昭和24年法律第193号）第14条の3の規定により定められた想定し得る最大規模の高潮による氾濫が発生した場合に、大分県において浸水が想定される区域（浸水区域）、想定される浸水の深さ（浸水深）、浸水継続時間と表示した図面です。

浸水区域や浸水深、浸水継続時間は、高潮による浸水の状況を複数のケースでシミュレーションし、その結果から、各地点で最大となる値を着色して表示しています。

なお、浸水深は、地盤の高さを基準としています。

高潮浸水想定区域図をご覧になる際は、次の事項にご留意ください。

○高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風を基本とし、各海岸で潮位偏差（潮位と天文潮の差）または高波が卓越する複数の経路を設定して高潮浸水シミュレーションを実施し、最大の浸水深が示されるようになります。

○最大クラスの高潮は、現在の科学的知見に基づいて、過去において実際に発生した台風や高潮から設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないものではありません。

○最大クラスの高潮を引き起こす台風として、中心気圧は、我が国で既往最大規模の室戸台風（昭和9年）の900hPaを想定し、移動速度は伊勢湾台風の時速75kmを想定しています。

○台風の接近・上陸時には、高潮のみならず、降雨も想定されることから、一級及び二級河川においては、想定し得る最大規模の高潮と同時に、河川整備の目標とする降雨による洪水が発生することも想定しています。

○想定し得る最大規模の高潮と想定し得る最大規模の降雨による洪水が同時に発生することは、それぞれの発生する確率が極めて低いことから、想定していません。

○海岸保全施設や河川管理施設である堤防等は、最も高い位置で高潮を想定し、潮位（水位）や波が一定の条件に達した段階で決壊するものとして扱っています。

・決壊後は、周辺地盤の高さと同様の地形として扱っています。

・地震による海岸保全施設等の沈下や破損などは想定していません。

○浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、前提とした各種条件を超える事象により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

○排水施設（ポンプ場）が浸水した場合、機器の水没により排水機能が停止することを考慮しています。

側溝・下水道や排水路だけでは、降った雨を排水することができずに、浸水が発生する内水氾濫は考慮していません。

○地形図は、主に令和元年度までに作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。

○地下につながっている階段、エレベーター、換気口等が、浸水区域に存在する場合、地下空間が浸水する恐れがあります。それを通じて浸水が広がることは考慮していません。

○高潮浸水シミュレーションは、計算規模や解像精度等の制約から、予測結果には誤差が存在するほか、再現できない現象もあります。現在の科学的知見に基づき、既往最大規模の台風をもとに想定し得る最大規模の高潮を推定していますが、実際には、これよりも大きな高潮が発生する可能性もあります。また、台風接近時の潮位等、計算の前提条件と異なる要因がある場合、浸水する区域や浸水の深さ、浸水継続時間が異なる可能性があります。なお、気候変動による海面上昇については見込んでいません。

○地盤高が想定平均満潮位より低い地域については、堤防等が被災を受けた場合、高潮が収束した後でも、日々の干満によって、浸水が発生する可能性があります。

○今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性があります。

【用語の解説】

①高潮 : 台風等の気象じょう乱により発生する潮位の上昇現象。台風や発達した低気圧が通過するとき、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」と言います。

②朔望平均満潮位 : 朔（新月）および望（満月）の日から前2日後日以内に観測された、各月の最高満潮面を1年以上にわたって平均した高さです。

③異常潮位 : 高潮や津波とは異なる要因で潮位が1週間から3ヶ月程度継続して高く、もしくは低くなる現象です。

④高潮偏差 : 天体の動きから算出した天文潮（推算潮位）と、気象等の影響を受けた実際の潮位との差（ずれ）を高潮偏差と言います。その潮位偏差のうち、台風等の気象じょう乱が原因であるものを特に「高潮偏差」と言います。

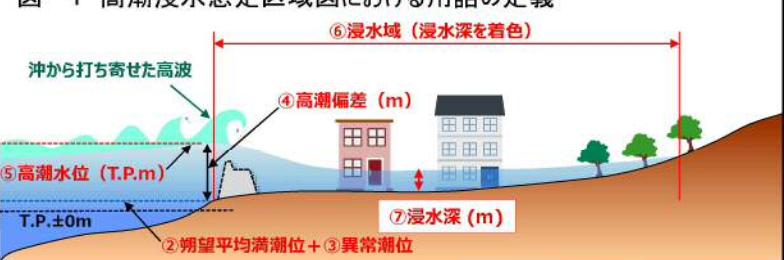
⑤高潮水位 : 台風来襲時に想定される海面の高さをT.P.基準※で示したものを指します。

※T.P.基準とは、高さ（標高）を表す基準として一般的に用いられるものであり、東京湾の平均水位（潮の満ち引きがないと仮定した海面）をT.P.0mとしています。

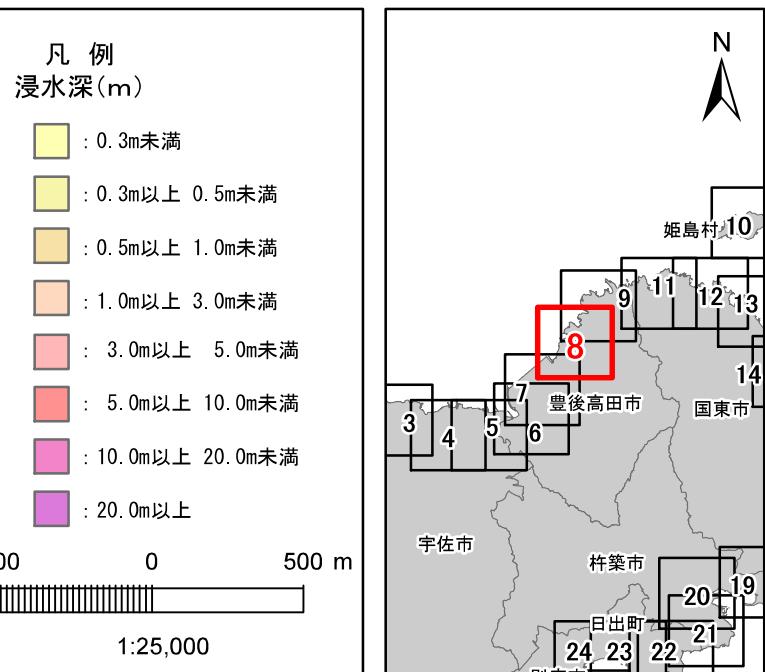
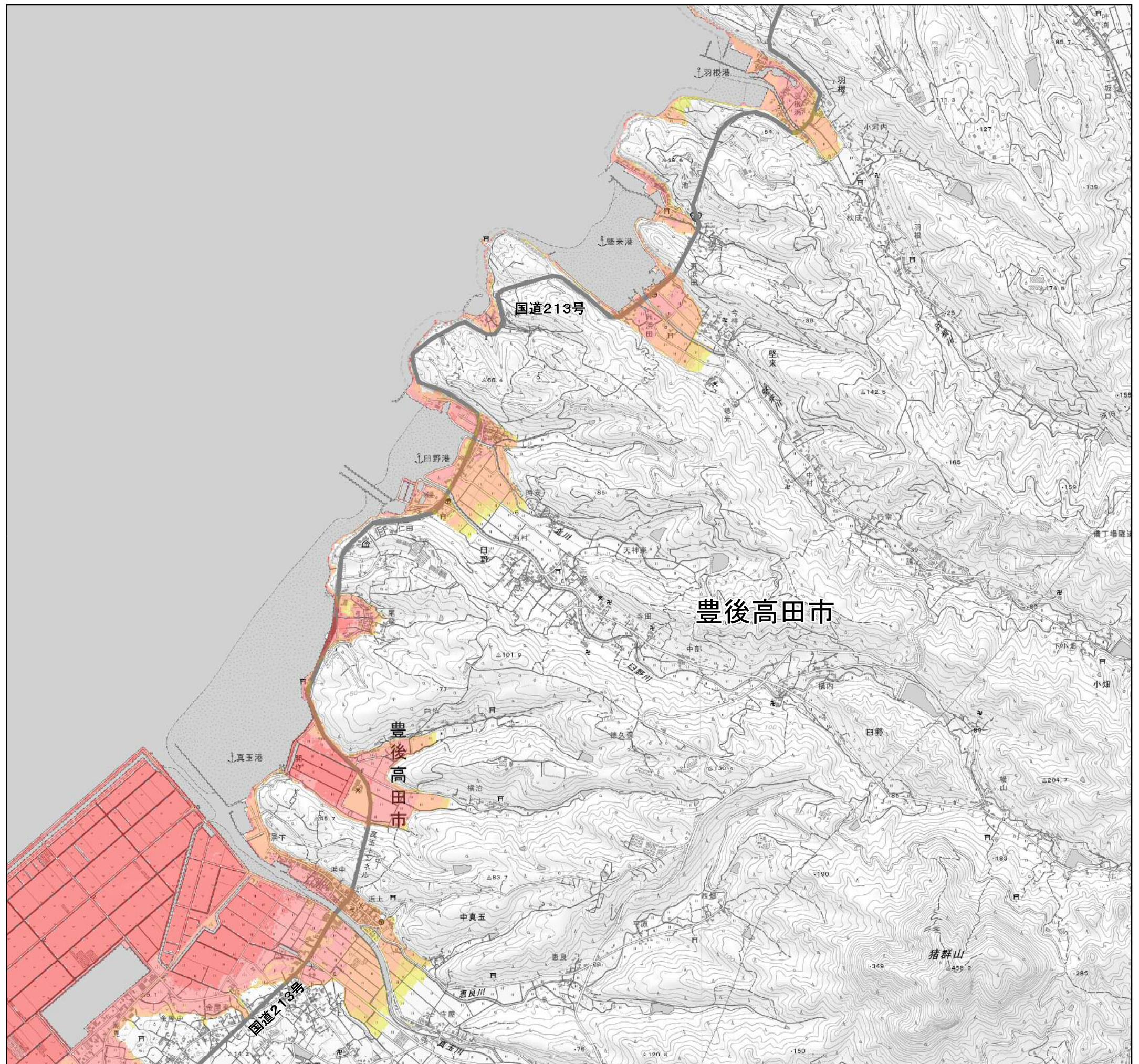
⑥浸水域 : 高潮や高波に伴う越波、潮流によって浸水が想定される範囲です。

⑦浸水深 : 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さです。

図-1 高潮浸水想定区域図における用語の定義



豊前豊後沿岸高潮浸水想定区域図 市町村別『豊後高田市』(8/62)



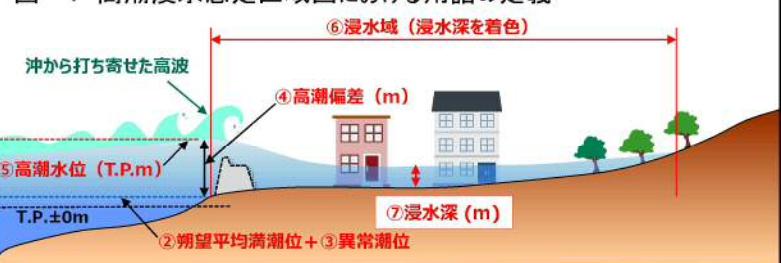
【留意事項】
高潮浸水想定区域図は、大分県において、水防法（昭和24年法律第193号）第14条の3の規定により定められた想定し得る最大規模の高潮による氾濫が発生した場合に、大分県内において浸水が想定される区域（浸水区域）、想定される浸水の深さ（浸水深）、浸水継続時間は、高潮による浸水の状況を複数のケースでシミュレーションし、その結果から、各地点で最大となる値を着色して表示しています。
なお、浸水深は、地盤の高さを基準としています。
高潮浸水想定区域図をご覧になる際は、次の事項にご留意ください。

○高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風を基本とし、各海岸で潮位偏差（潮位と天文潮の差）または高波が卓越する複数の経路を設定して高潮浸水シミュレーションを実施し、最大の浸水深が示されるようにしております。
○最大クラスの高潮は、現在の科学的知見を基に、過去において実際に発生した台風や高潮から設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないというものではありません。
○最大クラスの高潮を引き起こす台風として、中心気圧は、我が国で既往最大規模の室戸台風（昭和9年の900hPa）を想定し、移動速度は伊勢湾台風の時速75kmを想定しています。
○台風の接近・上陸時には、高潮のみならず、降雨も想定されることから、一級及び二級河川においては、想定し得る最大規模の高潮と同時に、河川整備の目標とする降雨による洪水が発生することも想定しています。想定し得る最大規模の高潮と想定し得る最大規模の降雨による洪水が同時に発生することは、それぞれの発生する確率が極めて低いことから、想定していません。
○海岸保全施設や河川管理施設である堤防等は、最悪の事態を想定し、潮位（水位）や波が一定の条件に達した段階で決壊するものとして扱っています。
・決壊後は、周辺地盤の高さと同様の地形として扱っています。
○地盤による海岸保全施設等の沈下や破損などは想定していません。
○浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、前提とした各種条件を超える事象により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
○排水施設（ポンプ場）が浸水した場合、機器の水没により排水機能が停止することを考慮しています。側溝・下水道や排水路だけでは、降った雨を排水することができずに、浸水が発生する内水氾濫は考慮していません。
○地形図は、主に令和元年度までに作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。
○地下につながっている階段、エレベーター、換気口等が、浸水区域に存在する場合、地下空間が浸水する恐れがあります。それを通じて浸水が広がることは考慮していません。
○高潮浸水シミュレーションは、計算規模や解像精度等の制約から、予測結果には誤差が存在するほか、再現できない現象もあります。現在の科学的知見に基づき、既往最大規模の台風をもとに想定し得る最大規模の高潮を推定していますが、実際には、これよりも大きな高潮が発生する可能性もあります。また、台風接近時の潮位等、計算の前提条件と異なる要因がある場合、浸水する区域や浸水の深さ、浸水継続時間が異なる可能性があります。なお、気候変動による海面上昇については見込んでいません。
○地盤高が想定平均満潮位より低い地域については、堤防等が被災を受けた場合、高潮が収束した後でも、日々の干満によって、浸水が発生する可能性があります。
○今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性があります。

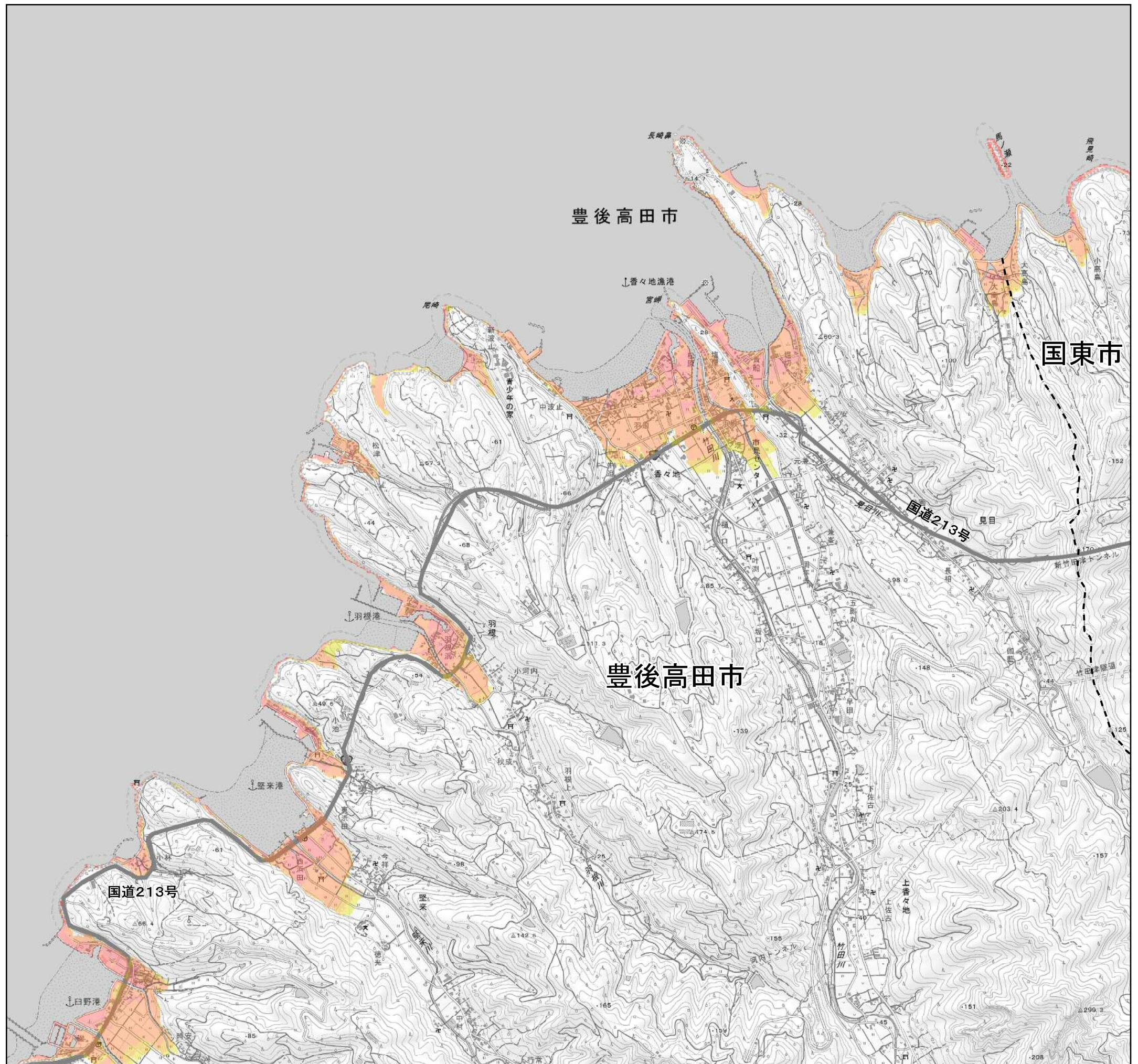
【用語の解説】

- ①高潮 : 台風等の気象じょう乱により発生する潮位の上昇現象。台風や発達した低気圧が通過するとき、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」と言います。
- ②朔望平均満潮位 : 朔（新月）および望（満月）の日から前2日後日以内に観測された、各月の最高満潮面を1年以上にわたって平均した高さです。
- ③異常潮位 : 高潮や津波とは異なる要因で潮位が1週間から3か月程度継続して高く、もしくは低くなる現象です。
- ④高潮偏差 : 天体の動きから算出した天文潮（推算潮位）と、気象等の影響を受けた実際の潮位との差（ずれ）を高潮偏差と言い、その潮位偏差のうち、台風等の気象じょう乱が原因であるものを持てば「高潮偏差」と言います。
- ⑤高潮水位 : 台風来襲時に想定される海面の高さをT.P.基準※で示したものを指します。
※T.P.基準とは、高い（標高）を表す基準として一般的に用いられるものであり、東京湾の平均水位（潮の満ち引きがないと仮定した海面）をT.P.0mとしています。
- ⑥浸水域 : 高潮や高波に伴う越波、越流によって浸水が想定される範囲です。
- ⑦浸水深 : 陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さです。

図-1 高潮浸水想定区域図における用語の定義



豊前豊後沿岸高潮浸水想定区域図 市町村別 『 豊後高田市 』 (9/62)

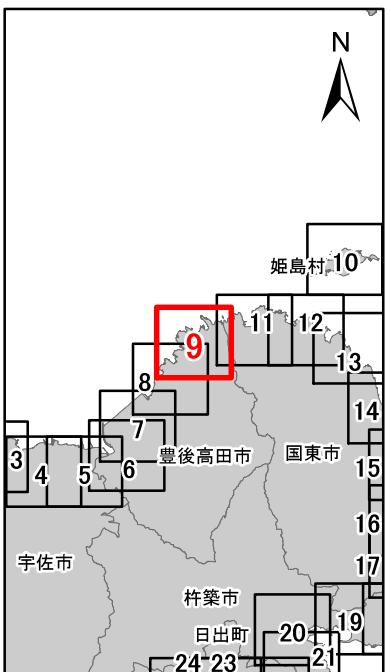


この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 3JHs 60」

令和3年6月作成

凡例
浸水深(m)

-  : 0. 3m未満
-  : 0. 3m以上 0. 5m未満
-  : 0. 5m以上 1. 0m未満
-  : 1. 0m以上 3. 0m未満
-  : 3. 0m以上 5. 0m未満
-  : 5. 0m以上 10. 0m未満
-  : 10. 0m以上 20. 0m未満
-  : 20. 0m以上



【留意事項】
高潮浸水想定区域図は、大分県において、水防法（昭和24年法律第193号）第14条の3の規定により定められた想定し得る最大規模の高潮による氾濫が発生した場合に、大分県内において浸水が想定される区域（浸水区域）、想定される浸水の深さ（浸水深）、浸水継続時間を表示した図面です。
浸水区域や浸水深、浸水継続時間は、高潮による浸水の状況を複数のケースでシミュレーションし、その結果から、各地点で最大となる値を着色して表示しています。
なお、浸水深は、地盤の高さを基準にしています。
なお、高潮想定区域図「警」になる際は、次の事項にご留意ください。

- 高潮浸水想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風を基本とし、各海岸で潮位偏差（潮位と天文潮の差）または高潮が卓越する複数の経路を設定して高潮浸水シミュレーションを実施し、最大の高潮深が求められるようにしております。
- 最大クラスの高潮は、現在の科学的知見を基に、過去において実際に発生した台風や高潮から設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないというもののではありません。
- 最大クラスの高潮を引き起こす台風として、中心気圧は、我が国で既往最大規模の室戸台風（昭和9年）

の900hPaを想定し、移動速度は伊勢湾台風の時速73kmを想定しています。

○台風の接近…上陸時には、高潮のみならず、陣雨も想定される。とから、一級及び二級河川においては、想定し得る最大規模の高潮と共に、河川整備の目標とする降雨による洪水が発生することも想定しています。想定し得る最大規模の高潮と想定し得る最大規模の降雨による洪水が同時に発生することは、それぞれの発生リスクが重なるため、二重化して対応する必要があります。

- 海岸保全施設や河川管理施設である堤防等は、**最悪の事態を想定し、潮位（水位）や波が一定の条件に達した段階で決壊するものとして扱っています。**

- ・決壊後は、周辺地盤の高さと同様の地形として扱っています。
- ・地震による海岸保全施設等の沈下や破損などは想定していません。

○浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、前提とした各種条件を超える事象により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深度がさらに大きくなったりする場合があります。

○排水施設（ポンプ場）が浸水した場合、機器の水没により排水機能が停止することを考慮しています。

- 脚水干涸式：渓流が浸水する場合、容器や小汎水により排水能が生むことができるところを考慮してます。
- 地形図は、主に令和元年度までに作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合もあります。

○地下につながっている階段、エレベーター、換気口等が、浸水区域に存在する場合、地下空間が浸水する恐れがあります。それを通じて浸水が広がることは考慮していません。

○高潮浸漫シミュレーションは、計算規模や解析精度等の制約から、予測結果には誤差が存在するほか、再現できない現象もあります。現在の科学的な知識に基づき、既往最大規模の台風をもとに想定し得る最大規模の高潮を推定していますが、実際には、これよりも大きな高潮が発生する可能性もあります。また、台風接近時の潮位等、計算の前提条件と異なる要因がある場合、浸水する区域や浸水の深さ、浸水継続時間等が予測結果と大きく異なることがあります。

- 間が異なる可能性があります。なお、気候変動による海面上昇については見込んでいません。
- 地盤高が朔望平均潮満位より低い地域については、堤防等が被災を受けた場合、高潮が収束した後でも、日々の干満によって、浸水が発生する可能性があります。
- 今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性があります。

【用語の解説】
①高潮：台風等の気象じょう乱により発生する潮位の上昇現象。台風や発達した低気圧が通過するとき、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」と言います。
②朔望平均満潮位：朔（新月）および望（満月）の日から前2日後4日以内に観測された、各月の最高満潮

面を1年以上にわたって平均した高さです。

③異常潮位 : 高潮や津波とは異なる要因で潮位が1週間から3ヶ月程度継続して高く、もしくは低くなる現象です。

④高潮偏差 : 天体の運動から算出した天文潮位(推算潮位)と、気象等の影響を受けた実際の潮位との差(ずれ)を潮位偏差と言います。この潮位偏差による、各段差の気象による乱れが原因で生じます。

差(すれ)は潮位偏差と言い、その潮位偏差のうち、台風等の気象じよう乱が原因であるものを持つに「高潮偏差」といいます。

⑤高潮水位：台風来襲時に想定される海水面の高さをT.P.基準位で示したものを指します。
よって、其の上には、さざなみ波高」の字面が並んでいます。一般的に用いられる名前です。

※T.P. 基準とは、高さ（標高）を表す基準として一般的に用いられるものであり、東京湾の平均水面（潮の満ち引きがないと仮定した海面水）をT.P.00としています。高潮：岬へ向う越波・潮流によって浸水が想定される範囲です。
陸への各地点でT.P.00をもとに高さを示すときに、たかさの世界をわくじますとの高さです。

⑦浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さです。

二、在组织上执行党的路线、方针、政策，贯彻民主集中制，对重大问题实行集体领导。

図-1 高潮浸水想定区域図における用語の定義

⑥漫水域（漫水深を着色）

波から打ち寄せた高波

④高潮偏差 (m)

A diagram illustrating tidal dynamics. A red vertical line is labeled "高潮轴左 (H)" (Left Axis of High Tide). An arrow points from this label to a green wave on the left side of the diagram. The diagram also shows a house-like structure and a green tree on the right.

高潮水位 (T.P.m)

⑦ 湿水深 (m)

②期望平均高潮位 + ③異常潮位

④朔望平均高潮位+⑤异常潮位

令和3年6月作

図-1 高潮浸水想定区域図における用語の定義

